

“世界標準規格”で航空機産業の飛躍をサポートする

都産技研では、販路開拓、資質の向上、技術・品質向上を目的に、中小企業の航空機産業への参入を支援しています。都産技研は2019年に航空機部品の評価に対応した2種類の国際規格対応試験でJIS Q 9100:2016の認証を得ました。認証取得がどのような支援につながるのか、機械技術グループの福田 良司 グループ長と西村 信司 副主任研究員に話を聞きました。

航空業界の標準規格

JIS Q 9100:2016は、品質マネジメントシステムであるISO 9001をベースにして、航空・宇宙分野固有の要求事項を追加した規格です。公設試験研究機関として、都産技研は全国で初めてJIS Q 9100:2016の認証を取得しました。

「航空機産業に参入するためにJIS Q 9100:2016の取得は必須ではありません。しかし、認証を取得したサプライヤーは品質管理能力が国際規格に適合していることの証明になるので、ビジネスチャンスを広げることにつながります。また、自社で認証を取得していなくても、都産技研のように認証を取得した試験機関で行った試験結果を、製造した航空機部品に対する品質の記録として利用することもできます」(福田)

「今回、都産技研が認証を取得した試験は、ロックウェル硬さ試験(ASTM E18)とマイクロピッカース硬さ試験(ASTM E384)の2種類ですが、そのほかの試験についても今後、認証取得を検討していく予定です」(西村)

認証取得により支援を一層強化

「ロックウェル硬さ試験とマイクロピッカース硬さ試験はこれまでも行っていましたが、JIS Q 9100:2016が求める試験結果の“質”を担保するためには、さまざまな手順を明確化する必要があります。試験装置の校正手順はもちろん、試料や記録文書の保管場所まで細かく明文化していくことが求められ、マニュアル作成には手間がかかりました」(西村)

「試験の“質”を維持するためには、試験担当者の“力量”も重要な要素です。そのため、定期的に担当者の力量を評価するしくみも用意する必要がありました」(福田)

また、認証機関による審査は認証取得時だけでなく、更新の審査もあります。

「JIS Q 9100:2016の認証審査、更新審査を経験してきて、認証取得のノウハウも蓄積してきたと感じています。これらのノウハウは、今後の技術支援にも活かせると考えています」(福田)

都産技研では国際規格対応試験として、今回JIS Q 9100:2016の認証を取得した2種類の硬さ試験のほかにも、FARに準拠した燃焼性試験などを提供しています。これらの試験は依頼試験として、皆さまにご利用いただけます。

「航空機産業での部品製造は国際的なルールに則ることが求められます。今回、認証を取得した試験が、航空機産業に新たに参入する企業の後押しとなることを期待しています」(福田)

都産技研は、国際的な航空機規格対応試験の認証取得を通じて、海外企業と直接取引できる能力を持つ日本の中小企業の成長をサポートしていきます。

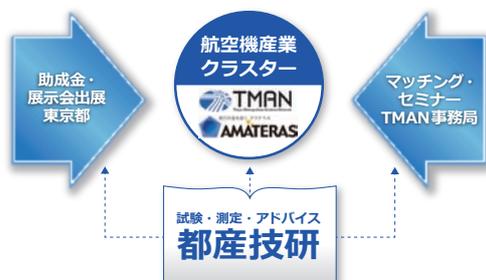


JQA-AS0233
航空機規格対応試験



機械技術グループ
グループ長
ふくだ りょうじ
福田 良司

機械技術グループ
副主任研究員
にしむら しんじ
西村 信司



都産技研による航空機産業クラスターへの支援

機械技術グループでは、TMAN (ティーマン)^{*1}、AMATERAS (アマテラス)^{*2}などの航空機産業クラスターへの参加企業と連携し、課題解決へ向けた共同研究や航空機部品の一貫生産試作技術サポートを行っています。

^{*1} Tokyo Metropolitan Aviation Network

^{*2} Advanced Manufacturing Association of Tokyo Enterprises for Resolution of Aviation System

お問い合わせ

機械技術グループ (本部)
TEL 03-5530-2570